



● 水管理 (基本管理)

- ・ 2月前半は地干しを継続し、地下部の充実促進に努めますが、圃場全体に小ひびが入ったら入水(走り水)を行い、過度の乾燥には注意しましょう。
- ・ 2月後半からは「原母芽形成期」となるため、走り水を行い水のある環境に徐々に慣らし、3月の「長い母芽形成期」に備えましょう。
- ・ 今後は水の駆け引きが多くなりますので、管理しやすい環境を整えましょう。

● 排水対策 (ポイント1)

- ・ 「排水対策」の善し悪しが、地下部の充実に関わり、今後のイグサの生育を左右します。

排水対策として、溝切りの施工や側溝の再整備を実施しましょう。

- ・ 溝切りは、排水だけでなく、入水による水の動きをスムーズにすることができます。

新鮮な用水には酸素が多く含まれており、その水が移動することにより土壌内にも酸素が供給され、根の健全化を助けます。↗

- ↳ すでに側溝や溝切りをしている場合でも、崩れている場合は再度整備を行いましょ。

● 補植作業 (ポイント2)

- ・ 欠株があれば、周囲のいぐさの伸長や収量に悪影響を及ぼしますので、補植を行いましょ。
- ・ 2月後半以降での苗挿しでは生育が遅れるため、圃場周囲の株を泥付きで移植しましょ。

● 雑草対策 (ポイント3)

- ・ 雑草防除は、発生する前の処理が基本です。遅れないよう体系防除を考え、適期に散布しましょ。

※詳しい体系防除については、JA指導員や県農業普及振興課にご相談下さい。

地下部の充実が、
これからのイグサにとって
大切だよね!



! ストップ! 農作業事故

事故者を発見したら

人間工学専門家 石川文武

農作業に限らず一般生活においても事故は起きてほしくないものです。しかし、いくら注意しているとはいえ、事故は発生します。

もしあなたが、げがをしたり、意識を失ったりしている人を発見したらどのように行動しますか？

無関心を装う、助けてあげたいけどどうしたらよいか分からない、救急隊に連絡するだけ、などいろいろな対応が挙げられますが、最初にすべき行動は、救急隊に連絡するとともに一次救命を行うことです。一般的に救急隊が到着するまでに最低でも6分間かかるといわれています。傷病者の容体にもよりますが、一次救命を行わなかったことにより、出血多量となったり、脳細胞の活力低下につながったりします。一刻も早く回復できるような手助けをできるように心掛けていきたいものです。

傷病者に意識があるかないか、大出血をしているか、骨折などにより体に変形していないかなどを観察し、一次救命の内容を決めます。

まず傷病者を発見したら、応急手当をするに当たり、周囲の安全を確認します。意識がある場合は安静体位を取らせませ。意識があっても頭部への損傷が予想される場合には動かしてはいけません。意識の有無にかかわらず、大量出血がある場合には、清潔なタオルなどで止血作業をしま。意識がない場合は、人工呼吸、心臓マッサージ、AEDを使って応急手当をしま。人工呼吸に抵抗がある場合には省略しても構いません。心臓マッサージをしつつAEDが到着したら、パッドを貼って処置をしま。心臓マッサージとAEDで意識を回復したら安心して救急隊に引き継ぎましょ。

AEDの使い方など細かいことはお近くの消防署や赤十字で講習を受けてください。



乙女座
8/23 ~ 9/22

- 【全体運】 情緒不安定になりやすいかも。
- 深呼吸で気持ちを安定させて。
- 植物の世話をしたり、ハーブティーを飲むのも吉

- 【健康運】 暴飲暴食はNG。散歩でリフレッシュを
- 【幸運を呼ぶ食べ物】 デコポン